

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立東吉塚小学校 教諭 高川 妃美樹

1. 単元名 東吉塚探検隊 「私たちと吉塚に住む外国の人々」

2. 単元の目標

- ・地域の人たちも、地域に住む外国の人のために行動していることを理解するとともに、外国の人にわかりやすいようにポスターなどをまとめることができる。(知識・技能)
- ・地域に住む外国の人の困り感を聞き取り、どのようにすれば地域に住む外国の人が安心して暮らすことができるのか考えるとともに、それらの考えをもとにポスターや絵本などの作成を通して地域に住む外国の人に伝えることができるようにする。(思考・判断・表現)
- ・吉塚の地域に住む外国の人が安心して暮らせるようにしたいという目的意識をもち、意欲的に外国の人と関わったり、困り感をもとにポスターや絵本等でまとめたりすることができる。(学びに向かう力・人間性等)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、校区に住む外国の人との繋がりをテーマに「吉塚リトルアジアマーケットに対する地域の人の想い」「愛和外語学院の学生との出会い」を教材として取り上げる。

本校が位置する福岡市博多区吉塚の地域には他の地域と比べても非常に多くの外国の方が住んでいる。理由としては近くに日本語学校や工場があり、そこで学んだり技能実習生等として働いたりしていることが挙げられる。

また、吉塚の地域には70年という長い歴史を持つ吉塚商店街がある。最盛期には150軒以上の店舗が並び賑わっていたそうだが、近年の高齢化や大型商業施設の進出等に伴い、シャッター街と化した。そこで2020年に吉塚商店街の再生と地域の多国籍化を融合させ、吉塚市場を新たに「リトルアジアマーケット」としリニューアルオープンさせた。商店街の再生ももちろんだが、リニューアルさせるにあたっては地域に住む人々の、「吉塚の町を外国の方が安心して過ごせる場所にしたい」という願いや想いが詰まっている。

この「東吉塚探検隊」では、まず吉塚市場のリニューアルに関わった委員の方を招き、なぜ「吉塚リトルアジアマーケット」にしたのかに対する想いを聞くことで活動への意欲を高め、今後の活動に具体性をもたせることが期待できる。

また、児童自らが地域の一員として「外国の人が安心して過ごせる地域づくり」に貢献するために愛和外語学院の学生と出会让せる。学生とのコミュニケーションを通して、いろいろな人と繋がることの良さや、関係を深めるコミュニケーションスキルの向上も図ることができる。さらには、交流の中で学生の困り感も取り上げる。このことを通して、吉塚市場をリトルアジアマーケットにした委員の方々のように、児童自らが地域の一員として「外国の方が安心して過ごせる地域づくり」をするために、学生の困り感から「ゴミの出し方ルールブック」や「温泉の入り方」などの表現物を作成したりするなど、相手意識をもって活動することができるようになる良さがある。

(2) 児童観

本学校は先述した通り、地域住民が多国籍である場所に位置するため、本学級の児童にも他国籍の児童が在籍している。また、学校付近にある吉塚駅前の広場は毎日多くの外国の方が集まり、彼らの交流の場となっている。このように児童の周りには多くの外国の方がいるが、事前アンケートによると、自分たちと関わりのない外国の方に対して「話したことがないから」や「何をしている人なのか知らないから」という理由で「怖い」「近寄りにくい」と答えた児童が学年(約120名)の内、約5割いた。

一方で、学校内や学級内にいる他国籍の児童に対し、本学級の児童は国籍等関係なく同じ仲間として受け入れるだけでなく、外国語の時間などでは、他国籍の児童が自分の国での数の数え方などを発表すると、自然と「すごい」「もっと教えて」などと興味を持ち、相手を認める発言も多く見られる。

このことから社会科や総合的な学習の時間で地域との関わりを学び始めたこの学年において、本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元では、まず 1 学期の社会科で学習した校区にある店や建物について振り返り、白地図上にプロットしていく。このことを通して吉塚の町には外国の店や建物が多いことに気付かせる。(この際吉塚市場に多く集まっていることも気付かせる。) また、吉塚駅の前に毎日たくさんの外国の方が集まっていることを話題に取り上げ、店だけでなく人も多く住んでいることに気付かせる。その資料や話をもとに、なぜ吉塚の町には外国の店や人が多く集まっているのかという疑問を持たせたい。

次に、吉塚市場に外国の店が多く集まっていることから、「吉塚リトルアジアマーケット」の存在を知り、「吉塚リトルアジアマーケット」へのリニューアルオープンに携わった、吉塚にある西林寺の住職、安武義修さんをゲストティーチャーに招く。そこで、吉塚リトルアジアマーケットは「吉塚の町を外国の方が安心して過ごせる場所にしたい」という願いや思いが詰まっていることに気付かせる。また、吉塚の地域の方々の思いから、自分たちも地域の一員として、地域に住む外国の方が安心して過ごせる町づくりに貢献したい」という思いを持たせたい。

そして、学習を進めるにあたって児童の意欲をより一層高めるために、地域に住む外国からの留学生(愛和外語学院の学生)と出会わせる。ここでは、学生との交流を通して、コミュニケーションスキルの向上を図らせるとともに、「地域に住む外国の方」として、困り感に直接触れさせたい。また、外国の方の困り感に対して、自分たちは地域の一員としてなにができるのかを考え、実践させたい。

さらには、活動全体の振り返りを通して、「外国の方が安心して過ごせる町づくり」に直接貢献できたということを実感させるとともに、他にも自分たちにできることはないだろうかと話合わせることを通して、これからの活動にもつなげていけるようにする。

(4) ESD との関連

ESD の視点 (見方・考え方)

- ・多様性：世界には多くの国や文化があり、人々の暮らし方や考え方は様々である。
- ・連携性：一人ひとりの力は小さくてもみんなで知恵や力を合わせて協力すれば大きなことが成し遂げられる。
- ・責任性：自分ができること、やるべきことを考えて、人任せにしないで自分から進んで行動することが大切である。

ESD で育てたい資質・能力

- ・コミュニケーションを行う力
→自分の考えをわかりやすく伝えたり、相手の意見を聞いて理解したりすることができる。
- ・他者と協力する態度
→仲間と役割を分担しながら協力して課題解決に取り組むことができる。
- ・進んで参加する態度
→自分ができることを見つけ積極的に行動を起こすことができる。

ESD で育てたい価値観

多様性の尊重 (文化多様性)

- ・人や自然の多様性を豊かさと捉え、違いを受け入れ認め合おうとする心を育てる。

関連する SDGs

「人や国の不平等をなくそう」

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 学びに向かう力・人間性等
<p>①地域の人たちも地域に住む外国の方のために行動していることを理解している。</p> <p>②外国の方にもわかりやすいようにポスター等にまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>①外国の方からの困り感を聞き出し、安心して過ごせる町づくりのために何をすればいいかを考えている。</p> <p>②学んだことや考えたことをもとにポスターや絵本などに表現している。</p>	<p>①吉塚の地域に住む外国の方が安心して暮らせるようにしたいという目的意識をもち、意欲的に外国の方と関わろうとしている。</p> <p>②愛和外語学院の学生との交流を通して、外国の方の困り感を把握し、自分たちには何ができるのかを考えようとしている。</p> <p>③ポスターなど、考えたことを外国の方に分かりやすいように工夫して発信しようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全 25 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>1 校区地図と校区の様子をもとに、吉塚の校区の特徴をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の店や、外国の方がたくさん集まっているのだね。 ・なんでこんなに多いのかな？ ・吉塚市場にたくさんあるね。 <p>2 吉塚リトルアジアマーケットのリニューアルに携わった西林寺の住職、安武義修さんの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉塚の町を外国の方が安心して過ごせる場所にしたい」という願いや思いがあったのだね。 ・自分たちも地域の一員としてできることはないかな？ 	<p>○1 学期の社会科で学習した、校区にある店や建物について振り返り、白地図上にプロットしていくことを通して、吉塚の町には外国の店や建物が多いことに気付かせるようにする。</p> <p>○ゲストティーチャーを招くことで「吉塚の町を外国の方が安心して過ごせる場所にしたい」という願いや思いにふれさせる。</p>	△ア①
2	<p>3 愛和外語学院の学生と交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の方と初めて話したな。 ・私たちと同じ吉塚に住んでいるのだな。 <p>4 学生（外国の方）の困り感について聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの出し方が難しいのだな。 	<p>○愛和外語学院の学生と仲良くなり、地域に住む外国の方との仲間意識をもたせるようにする。</p> <p>○安武さんの話をもとに、地域の人も外国の方が安心して過ごせる町づくりをしていることを振</p>	△イ① △ウ①

	<ul style="list-style-type: none"> 文字ばかりで分かりにくいのだな。 <p>5 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ地域の仲間として、これからは助けたいな。 私たちにできることはないかな？ 	<p>り返り，安心して過ごせているのかや困りごとはないのか聞くことを提案する。</p> <p>○今後の活動へと連続発展させていかなるために，交流を通して得た思いを想起させる。</p>	
3	<p>6 困り感をもとに地域の一人としてなにができるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみの出し方が難しいと言っていたのでごみの出し方ルールブックを作ろうかな。 <p>7 ポスターや本を作成する。（ごみの出し方など）</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字は難しいと言っていたからひらがなにしようかな。 イラストをつけたら分かりやすいと思うよ。 	<p>○交流で聞いた困り感をまとめ，地域に住む外国の方が安心して過ごせるようにするために，自分たちにできることはないかと考えさせるようにする。</p> <p>○学生との交流を通して，読みやすさや分かりやすさなどについても意識させ，相手意識をもたせる。</p>	<p>△ウ②</p> <p>△ア② △イ② △ウ③</p>
4	<p>8 困り感をもとに作成したポスターや絵本をプレゼントする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 少しでも役に立ってうれしかった。 たくさん喜んでくれて，自分たちも嬉しかった。 <p>9 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たちが作ったもので安心してくれたみたいだね。うれしい。 他にできることも探して役に立ちたいな。 	<p>○児童が自分たちの力で学生の困り感の解決に貢献できたことを実感させるために，作成したポスターや絵本等を手渡しでプレゼントさせるようにする。</p> <p>○今後の活動へと連続発展させるために，活動で得た思いを子ども同士で交流させる。</p>	
5	<p>10 地域の人や保護者の人などに知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何か一緒に作品を作って飾ったら，私たちの活動の様子を知らせることができるかもしれないね。 参観日に合わせて学校や公民館に飾るとより多くの保護者や地域の人に見てもらえるかもしれない。 モザイクアートの下に私たちが交流を通して学んだことを言葉でまとめて，掲示すると，より私たちの思いが伝わるかもしれないね。 	<p>○国籍関係なくみんなで協力して一つのことを成し遂げたということを知らせ，地域や保護者の人にもみんなが助け合える町にしたいという思いを伝えるために，モザイクアートを作り地域や学校に掲示する。</p>	